

東海・北陸のキリシタン史跡巡礼

「あかしする信仰」

カトリック名古屋教区殉教者顕彰委員会



「序にかえて」

『東海・北陸のキリシタン史跡巡礼』編集委員長 栗木 英次

カトリック名古屋教区は、一九九七年（平成九）十一月に、「日本二十六聖人殉教四〇〇年祭」の記念事業として、小冊子『キリシタン殉教史跡案内』を出版いたしました。この出版は名古屋教区内の殉教地案内のようなものが欲しいという希望にお応えするものでした。それからすでに十年以上の歳月が経過し、この小冊子も残部がなくなり、また各地の殉教地巡礼の手引書として再版を要望する声が高まっていることから、新たなかたちで殉教者史跡巡礼の案内書を発刊することとなりました。今回の出版では、殉教地を回って信仰の証を求めたい人々の手助けとなることを願って、『あかしする信仰―東海・北陸のキリシタン史跡巡礼』というタイトルにしました。

殉教地を巡礼することは、わたしたちが歴史の中で証された信仰と、自分の信仰のつながりを確かめる旅であり、信仰のいのちを蘇らせる機会でもあります。そのことから、新たなキリシタン史跡案内では、過去において尊い血が流された殉教地ばかりでなく、「信仰を証した人々や史跡」を訪ねて歩くための「心の旅」の手引書としました。そのために、江戸時代初期の禁教時代から、近代日本の始まりとなった明治期までの歴史にも想いをめぐらせられるようにし、明治時代から再び信仰の歴史が始まる原点となった長崎浦上信徒流配史、主税町教会の歴史にも触れました。この小冊子が、信仰を証することの意義を伝え、現代を生きるわたしたちの信仰生活の導きとなるならば、それにまさる喜びはありません。